

## フロリダのディズニーワールドと比較して

北田翔平

日本にあるディズニーランドと、フロリダにあるディズニーワールドは規模が全然違います。まず、大きさはなんと総面積山の手線の内側面積の1.5倍もあります。その中にはたくさんテーマパークがあります。マジックキングダム・パーク、ディズニー・アニマルキングダム、エプコット、ディズニー・ハリウッドスタジオの4大テーマパークを軸に展開しています。マジックキングダム・ハーツは、ディズニー・パークの定番とっていいでしょう。しかし、ここだけにしかないアトラクションがたくさんあります。ここでいくつか紹介しましょう。

一つ目は「スティッチのグレート・エスケープ」です。設定としては、銀河系の悪者たちを拘留するテレポート・センターからスティッチが逃走して大騒ぎに。真っ暗闇の部屋で、スティッチは捜査官となったゲストの足元を駆け回ったり、首をくすぐったりとイタズラし放題。果たしてスティッチを捕まえることができるのでしょうか。音、感触、匂いなど様々な仕掛けがあり、五感で楽しめるアトラクションとなっています。このアトラクションの特徴は、日本のディズニーランドにはありません。音、感触、匂いなど、五感でアトラクションを楽しめるようになっています。日本では3Dを用いますが、このアトラクションは匂いを体験できることにより、よりアトラクションに引き込まれるような、独特な工夫がこなされています。



次に、「モンスターズ・インク・ラフフロアー」というアトラクション。これは、ディズニー・ピクサー映画「モンスターズ・インク」の人気者、一つ目マイクや仲間たちが、ゲストとリアルタイムで会話しながら笑いをとるコメディ・ショー。日本にも「モンスターズ・インク」のアトラクションですが、内容が全く異なっていて、乗り物に乗り、隠れているマイクを懐中電灯で探し当てるといったものです。同じ「モンスターズ・インク」でも、国が違えば、アトラクションの内容も異なってくるのです。それぞれの国の文化、趣向によって工夫がされているのです。



次に、「ディズニー・アニマルキングダム」。このパークは自然と触れ合えるアトラクションが魅力で、代表的なアトラクションは「キリマンジャロ・サファリ」です。本物の野生



動物が住む草原やジャングルを、サファリトラックに乗って探検するアトラクション。このような、アトラクションが日本のディズニーランドにあると想像すらできません。ここからもフロリダのディズニー・ワールドの規模の大きさがうかがえます。

またここには、アトラクションを作る際の細部までのこだわりが施されているアトラクションがあります。それは「エクスペディション・エベレスト」です。ディズニー・ワールド開園 50 周年記念につくられたアトラクションでもあり、凄まじい人気を誇っているそうです。設定としては、爆走する列車で、襲い掛かる雪男から逃げようという迫力満点のコースターアトラクション。その舞台となっているのは、フロリダ版人工のヒマラヤ山脈で標高 60 メートル。ところで、このアトラクションの細部へのこだわりは、精巧に彫られた本物さながらのトーテムポール、樹木、古びた村の建物などが置かれ、現地を再現しています。そのために、合計 2,000 点もの手作りの小道具、家具、装飾品がアジアから直接持ち込まれているほどです。これほどのこだわりは、莫大な費用が掛かるとは思いますが、お客様に提供するサービス精神には改めて感動しました。このアトラクションは、標高 60 メートルもあり、とても日本のディズニーランドでは作ることはできません。なぜなら、日本のディズニーランドはパーク内から外の風景、外部からパーク内は絶対に見えないようになっているからです。ディズニー直営のホテルを建設する際にも、ホテルからパーク内は一切見えないようになっています。これはあくまで「夢の国」というものをお客様に提供しているからです。標高 60 メートルとなると、外部から丸見えになってしまう。このようなことから、このような迫力満点なアトラクションは、フロリダのディズニー・ワールド独特のアトラクションともいえます。また他にも、「ディズニー・ブリザード・ビーチ」といって、ここには多種多様なウォーターライダーがあり、夏にもってこいのテーマパークであります。設定としては、「突然常夏のフロリダに大雪が降り、リフトやジャンプ台を備えたスキー場を作ったところ、あっという間に太陽が雪を溶かして水があふれ出した。」という設定で造られたパークです。日本のディズニーランド付近では積もるほど大雪が降ることはなく、これらの発想は海外独特の考えであり、規模的にも日本では到底作ることのできないテーマパークだと感じました。これらのように、フロリダのディズニー・ワールドはとにかく広く、規模が大きくて、日本では到底体験できないであろうテーマパークがたくさんあります。すべてのテーマパークを体験するには 2～3 週間もの時間がかかるそうです。規模が大きくても、ディズニー・ワールドのこだわりがたくさん詰まっています。フロリダのディズニー・ワールドを調べていくうちに、たくさんの魅力に引き込まれていき、私もお金を貯めてぜひ一度足を運んでみたいと思いました。



次に日本のディズニーランドの特徴についてです。まず、現地のキャストの方から聞いたお話によるとこのような屋根がテーマパーク内に設置されているのは、日本のディズニーランドだけだということです。日本は比較的に雨が深い国であるため、突然雨が降っても雨宿りできるように設置されています。また雨宿りしているだけでは、時間がもったいないのでその付近には、お土産を買えるようなSHOPがずらりと並んでいます。これは、日本独特の工夫です。また私たちが研修で実際にディズニーランドへ訪問したときも天気は雨でした。パーク内に水たまりができていて、実際に滑ってこけているお客様がいたので、ディズニーランドのキャストはどのような対応をとるのか、注目していたらこのような光景を目にすることができました。たくさんのキャストが束になって水溜まりをなくしようと、排水溝まで水を追いやっていました。このような気配りは雨の多い日本だからこそ、対応がしっかりとできていたと感じました。また、アトラクションの列を整備しているキャストに質問をしてみました。「どのようなことを意識して業務をされていますか」そうすると、「雨で路面がぬれていると危険性がとても高いので、焦っているお客様を何とか落ち着かせ、怪我なくディズニーランドを楽しんでもらえるように」と言っていました。やはり、パーク内全体でお客様に安全に楽しんでもらえるようにと意識していることが、パーク内全体に浸透しているのだと感じました。他にも、パーク内のインフォメーションセンターには、このようなものが置いてありました。これは目の不自由な方が、ミッキーとはどのようなものなのか、シンデレラ城はどのような形をしているのか、視覚でとらえることのできない人たちへも触覚を通じてディズニーランドとはこのようなものだ、と感ずることができる工夫が凝らされていました。この工夫に私はとても感動を覚えました。

小さい子供から老人まで様々な人々が訪れるディズニーランド。その中で来場していただいた人には必ず満足をしてもらう。そのための工夫や気配りが徹底されているからこそ、約98%ものリピーター率を誇っているのでしょう。今回初めて、アンバサダーホテルに宿泊しましたが、そこでのサービスもかなり徹底されていました。たまたま私たちの部屋にボディソープがおかれていなくて、フロントに電話したところ、部屋の人数分のお風呂セットが届けられ、さらに綺麗な紙袋まで用意されていて、この対応にとっても感激しました。また、チェックアウトしたにも関わらず、その日の夜行バスの出発まで荷物を管理してくれたり、今まで宿泊してきたホテルにないようなサービスがたくさんありました。パーク内だけのサービスではなく、ディズニー直営ホテルまで、素晴らしいサービスがいきとどいていて、驚きの連続でした。

山内ゼミを通して、ディズニーランドの研修を受けることができ、ほんとうに財産になりました。私自身よくディズニーランドへ遊びに行きますが、いつも楽しく満足して楽しめているのは、キャストの気配りや目の行き届かないところへの配慮がされているからこそだと感じました。